

演者は、「中山間地域等（離島及び中山間地域）の小規模自治体（保険者）における地域包括ケアシステム構築の好事例の実態把握と都道府県、地方厚生（支）局の支援方策のあり方に関する研究事業」【平成29年度厚生労働省老人保健健康増進等事業】（以下、『老健事業』と略記）との委員長として、中四国の中山間地域における地域包括ケアシステムについて調査をおこなった。その概要を報告する。

地域包括ケアシステムの推進の社会的背景として、高齢人口の増加、それに伴う社会保障費の増大がある。従来の病院中心の治す医療（Cure）から地域中心で本人のQOLを支える地域包括ケアシステム（Care）への転換が求められる。しかし、過疎・高齢化の進む中山間地域では、その地域包括ケアシステムの構築にはさまざまな課題が存在する。四国は面積で約70%が過疎地域であり、全人口の19.4%、高齢人口の25.2%過疎地域に居住している。こ

これらの地域では社会資源やマンパワー不足の問題を抱えているが、今後、人口減少とともに、地域包括ケアシステムの構築や維持が、ますます厳しくなると考えられる。

今回の老健事業は、1. 中山間地域等の地域包括ケアシステムの実態を把握、2. 地域の実情に対応した地域包括ケアシステムの先進事例集を作成、3. 県・地方厚生局等からの望ましい支援内容の検討、を目的としておこなった。詳細は全国国保診療施設協議会のWebサイト（<https://goo.gl/pN5PsS>）から報告書をダウンロードして参照いただきたい。自治体、国保直営診療施設に対しておこなったアンケート、現地調査からは様々な課題が抽出された。これを踏まえて県・地方厚生局への提言もおこなった。

演者は、豊かな地域包括ケアシステムの構築は、国の政策の上意下達でおこなわれるものではないと考えている。「仕方なくやらなければならない」ではなく「自分たちのためにやらなければならない」、と考えておこなうべきである。「ないものねだり」ではなく「創意工夫」で、その地域らしい地域包括ケアシステムが構築されることを願ってやまない。

○四国の人口と過疎地域

	全域	過疎地域
全人口	384.6万人	74.4万人（19.4%）
高齢者数	117.1万人	29.6万人（25.2%）
高齢化率	30.1%	39.5%
面積（km ² ）	18,783	13,053（69.5%）
人口密度（人/km ² ）	204.7	57.3

国勢調査（総務省2015）、全国都道府県市町村別面積調（1990）より演者作成

○抽出された課題

1. データを十分に活用した取組ができていない自治体が多い
2. 国・県からの支援は「やらねばならないこと」と受取ってしまう
3. 縦割り行政から脱却できず、総合的な施策になっていない
4. 中山間地等ではサービスを提供するのにコストが高くなる
5. 地域包括ケアシステムの客観的な評価指標がない
6. 在宅ケア、看取りの住民啓発活動が必要
7. さまざまな職種の人材不足
8. 複数の自治体にまたがってサービスが提供されている場合、医療介護連携の推進のためには単独の自治体で困難

○国や都道府県・地方厚生支局等の支援のあり方に関する提言

1. 地域特性に応じた柔軟な支援
2. 高齢者の住まいに関する状況把握・施策反映の手法提示
3. 医療に関する連携体制の構築支援
4. データの分析方法、結果の活用方法の啓発
5. 客観的・専門的な支援・援助・情報提供
6. 基礎的・総論的事項に関する広域的な住民教育、市民啓発